

東京家政大学博物館

春の企画展

わたしの服・ぼくの服 一和と洋のはざままで



明治の文明開化と共にもたらされた洋服は、はじめ上流階級や特定の職業の人々に限られたものでしたが、大正・昭和にかけて徐々に日本人の衣生活に定着していき、戦後の復興期にほぼ完全に和服にとって代わりました。この洋装化の過程は、和服と洋服がともに暮らしの中で息づいていた時代ととらえることもできるでしょう。



その中でも、特に活動的な子どもの衣服には、機能性ととんだ洋服が積極的に取り入れられました。洋装店や裁縫学校、そして家庭でさかんに手作りされ、子どもの洋服は生活の中に浸透していきます。

一方で、子どもの成長を祝う儀式では、特別な意味や願いが込められた伝統的な衣装が受け継がれ、現代でも和装を目にする数少ない機会となっています。

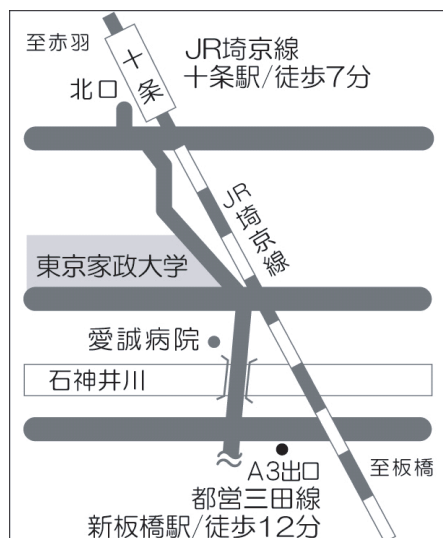
本展では、近代化を反映した子ども服の変化とともに、時代をこえて変わらない、子どもたちの健やかな成長を願う人々の想いを感じていただければと思います。かつてのお気に入りの服やなつかしい服にぜひ会いにきてください。

イベントにあつまれ!!

かわいい♡
「アップリケの小物を作ってみましょう！」

5月28日(水)・6月5日(木) 13:30~15:30

当日受付 先着20名(参加費・材料費は無料です)



*十条駅北口を降りたら
左手に進んでください。

開催場所：東京家政大学博物館 🏰
(東京家政大学内・百周年記念館5階 展示室)
東京都板橋区加賀1-18-1
TEL 03-3961-2918
<http://www.tokyo-kasei.ac.jp/hakubutu/>

開催期間：平成20年5月18日(日)~6月9日(月)
休館日：日曜(5月18日は開館)
観覧料：無料
開催時間：9時30分~17時 金曜日は18時まで
(入館は閉館の30分前まで)